



No.125

学びの充実のために

この夏、県内各地で伝統的な地域の祭や新たな視点の催しが新聞紙上等で毎日取り上げられていました。企画・運営をなされた皆様に本当に敬意を表します。どの事業も工夫を凝らし参加者の笑顔が感じられました。人と人とのつながりづくりや地域活性化に向け素晴らしい取組をそれぞれの地域で実践しているのだなあと感じました。

現在岩手県立生涯学習推進センターでは、住民の交流や地域課題解決を目指し、市町村担当者、公民館・市民センター職員、地域団体職員等を対象に「人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座」を県内6会場にて開催しています。その中で新たな視点をもって開催した講座について紹介します。

＜宮古会場＞ 障がい者の卒業後の学びを考える

特別支援学校高等部の卒業生を交え、学校卒業後の豊かな学びのあり方、共生社会における生涯学習について共に考える機会にする。

「特別支援学校卒業生が自分の住んでいる地域の生涯学習の場に参加する」ことをねらいに開催しました。

当日は、NPO法人「クチェカ」理事/事務局長の鈴木悠太氏の事例発表、鈴木氏と宮古恵風支援学校の湊教諭と卒業生のトークセッションを行いました。参加者は生涯学習担当、保健福祉担当、社会福祉協議会等の様々な立場の方に参加いただきました。地域の生涯学習は今まで、余暇時間が比較的多い高齢者の方が中心でした。これからは、学ぼうとする意欲を掘り起こし、多様な方の参加を目指していきたいものです。



「トークセッション」の様子

＜滝沢会場＞ ICT でつなぐ学びを考える

ICT(情報通信技術)を活用した世代間交流や地域防災等、地域住民へICT活用の推進を図ることで、持続可能な地域づくりを行うための一助とする。

NTT 東日本岩手支店ビジネスイノベーション部の方々の提供する機器を、参加者が実際に触れ、体験することで、ICTを活用した新たな事業の提案を行った研修講座でした。

4つのコンテンツ(「eスポーツ」「防災みまもり」「プログラミング教室・デジタルデバイド解消」「体験学習プログラムとDX人材育成の取組」)に分かれて、順番に参加者に体験してもらう内容でした。通常の当センター事業は座学の学習や熟議等交流する研修が多い中、体験をメインに今までとは違う内容で企画しました。今後、事業のマンネリ化を防ぐだけでなく、地域防災の仕組づくりや、地域住民の新たな学びをつくり出すきっかけになれば良いと考えています。



「eスポーツ」体験の様子

以上の2つの研修講座に共通するのは、「新たな生涯学習のかたち」と言えるのではないのでしょうか。

岩手県の人口は昭和60年に140万人を超えていましたが、令和6年10月は114万人強で、40年で26万人ほど減少しています。近頃の出生数減少をみても今後県民人口が大きく増えることは望めません。少なくなった地域住民総ぐるみで、激甚化する自然災害等に向き合っていかなければならず、共助の意識を高め、地域づくりを進めなければなりません。そのためにも、既存の学びの更新をはじめ、新しい地域のつながりづくりを進めていくことが必要となってきています。

(所長：千葉 憲一)

岩手県におけるコミュニティ・スクールの状況と課題

1 早期からの制度整備と導入促進

岩手県では、地域と学校が連携・協働して子どもたちの成長を支える体制づくりに、早くから積極的に取り組んできました。平成 29 年度には「いわて地域学校連携・協働推進事業」が立ち上げられ、県内のコミュニティ・スクール（以下、「CS」という。）導入促進を目的とした検討委員会が設置され、県立学校を中心に予算措置や研究指定事業、推進フォーラムなどが展開されました。

令和 2 年度からは「地域学校協働活動・教育振興運動」推進 5 か年プランが始まり、「目指す子どもの姿」の共有を軸に、CS との連携が全県共通課題として位置づけられ、取組が進められました。これらの取組の成果として、令和 4 年 10 月には県内全自治体で CS が導入され、自治体の導入率は 100% に達しました。令和 6 年度には、幼稚園を除く全校種で導入率が 90% を超え、令和 7 年度には 95% 以上に達する見込みです。

2 導入以前からの地域連携の取組

岩手県では、CS 導入以前から地域と学校の連携を図る多様な制度や取組を行ってきています。代表的なものとして、以下が挙げられます。

- (1) **学校評議員制度**：校長の推薦により教育委員会が委嘱した保護者や地域関係者が学校運営に意見を述べる体制。
- (2) **いわて型コミュニティ・スクール**：「まなびフェスト」を活用し、地域と学校が目標や達成状況を共有する取組。
- (3) **教育振興運動**：子ども・家庭・学校・地域・行政の 5 者が話し合い、地域課題に対応する実践活動。県内には約 400 の実践区が存在しています。

3 CSと地域学校協働活動の一体的な推進の必要性

CS と地域学校協働活動は、それぞれ制度上は異なる枠組みですが、目的は共通しており、学校と地域が協働して子どもたちの育成に取り組む点で密接に関係しています。CS が学校運営への地域参画を制度的に保障する仕組みであるのに対し、地域学校協働活動は、地域の人材や資源を活かした教育活動の実践を支えるものです。この両者を一体的に推進することで、学校運営と教育活動の両面において

地域の力を最大限に活用することが可能となります。例えば、学校運営協議会で地域課題を共有し、それに基づいた地域学校協働活動を展開することで、地域のニーズに即した教育の実現につながります。また、活動を通じて得られた成果や課題を学校運営協議会にフィードバックすることで、より実効性の高い運営が可能となります。

岩手県では、こうした一体的な推進を図るため、CS と地域学校協働活動を「両輪」として位置づけ、相互に補完し合う体制づくりを進めています。

4 現状の課題と今後の展望

制度的な導入が進む一方で、いくつかの課題も浮き彫りになっています。

- (1) **参画の質の向上**：制度導入は進んでいるものの、地域住民の実質的な関与が十分でない学校が見受けられます。
- (2) **学校運営協議会の機能強化**：協議会が形骸化せず、学校運営に実効性のある意見を反映できるような取組が必要です。
- (3) **人材確保と育成**：地域の多様な人々が教育活動に関われるよう、啓発や育成の仕組みづくりが求められています。

今後は、学校と地域が真のパートナーとして協働し、地域の力を教育に活かす体制のさらなる充実が求められます。CS を核とした「地域とともにある学校づくり」を進めることで、子どもたちの豊かな学びと、地域の未来を担う人材の育成につながることを期待されます。

また、先進的な取組を県内全域に広げることで、地域間の格差を縮小し、持続可能な教育環境の構築にも寄与するものと考えます。岩手県の CS は、制度的な整備に加え、地域と学校が、真に協働する「共育」の場へと進化することが期待されます。

岩手県や文科省のコミュニティ・スクールに関する情報は
こちらから



まなびネットいわて



学校と地域でつくる
学びの未来

岩手県立生涯学習推進センター 事業報告

6/13(金)実施 放課後の子どもの居場所指導者研修会1

「子どもアドボカシー」について学ぶことを目的に、341名が受講しました。一般社団法人ふたば 代表理事 櫻 幸恵 氏を講師に招き、講義・演習を行いました。講義では、子どもの声を聴き本音を受け取ることの大切さを教えていただきました。また、「表現が苦手な子どもには、表現することを手伝い、希望があれば代弁する」といった具体的な技法も紹介していただきました。演習では、自分の体験やそのときに感じたことを交流したり、子どもと支援員が関わる場面を想定したロールプレイングを行いました。自分の関わる子どもを想像しながら、これからの子どもへの関わり方について考えを深める機会となりました。



櫻氏は「子どもの権利条約」にも触れ、事例を織り交ぜながら講義していただきました。



演習では、グループで活発な意見交流がなされました。様々な立場の方と交流する有意義な時間となりました。

6/17(火)実施 社会教育指導員・地域づくり関係職員等 研修講座

地域づくりの取組に必要な視点や支援について学ぶことを目的に、計39名が受講しました。日本女子大学 人間社会学部 准教授 萩野 亮吾 氏を講師に招き、講義を行いました。講義では、「グループづくりのコツ」「居場所から地域のつながりを広げること」「地域コミュニティをエンパワメントすること」等を、丁寧な解説を交えて教えていただきました。また、情報交換で出された意見等を、講師がリアルタイムでパソコンに打ち込み画面表示することで、オンライン受講者も内容を共有することができました。「新しいコミュニティ、居場所づくりに欠かせない考え方、手順について多くのことを学んだ。対話を大事にしたい」などの感想が寄せられました。



地域コミュニティに働きかけるポイントを示していただきました。



グループ交流では、一人ひとりの抱えた悩みや現状を吸い上げ、事例の紹介やアドバイスを提示していただきました。

8/1(金)実施 コミュニケーションスキルアップ研修講座

「地域住民や保護者の信頼を得るためのビジネスマナーの基本を学ぶ」「円滑なコミュニケーションスキルを学ぶ」ことを目的に、37名が受講しました。講師に offre M's コミュニケーションアドバイザー 電話対応技能検定指導員・試験官 産業カウンセラー 田原 美晴 氏を招き、講義を行いました。講義では、お辞儀、電話対応や名刺交換、湯茶の出し方等を細かく教えていただきました。また、職場で上手くコミュニケーションをとるポイントを伝授していただきました。明日からの業務ですぐに使える内容で、有意義な研修会となりました。



田原氏から、「第一印象は目と耳からの情報でほとんどが決まる」と、声のトーンを変えて見本を示していただきました。



実際にペアで名刺交換の練習を行いました。一度では覚えられないので、何度も繰り返し練習することが大事ということを教えていただきました。

8/21(木)実施 学校と地域の連携・協働研修会

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の基本的な考え方や進め方を確認し、地域と学校の連携・協働の充実につなげることを目的に、計60名が受講しました。文部科学省 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏を講師に招き、基調講演を行いました。講演では、国の最新の動向を紹介していただき、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進をしていくためのポイントを、分かりやすく解説していただきました。行政説明では岩手県教育委員会より、本県の学校と地域の連携・協働の現状についての説明がありました。情報交換・熟議体験では、感想や実践を伝え合ったり、活発な意見交流がなされました。「コミュニティ・スクールの導入状況、改正法について情報を更新できた」「学校運営協議会の熟議のイメージができた」などの感想が寄せられました。



明朗快活な志々田先生のお話は、とても分かりやすく引き込まれる内容でした。



熟議体験では、「岩手の子ども達の夢をかなえるために必要なこと」を考え、話し合いを深めました。

文化芸術講座



陸前高田市では、文化芸術に身近に親しみ、楽しく創造、表現する機会を増やすことにより、市民一人ひとりが楽しみや充実感を味わうとともに、明日への活力を養うことと、当市の文化芸術活動の担い手の育成や発展を目的に文化芸術講座を開催しています。

中でも人気があるのが「椿ゆべし作り」講座です。気仙地方で伝統的な菓子として各家庭で作られている「ゆべし」を、市の花である椿の形で作ります。小学生以上が参加できる講座となっており、かわいらしい「椿ゆべし」に親しみを持ってもらい、若い世代に郷土料理を引き継いでいくこともできると期待しています。

親子で参加する方も多く、親子や地域の方々とコミュニケーションの場ともなっています。

また、今年の5月に開館した岩手県指定有形文化財である「旧吉田家住宅主屋」を会場に、歴史や文化を見学しながら、住宅の一部にも使用されている気仙大工左官が手掛けた伝統技術の組子細工を体験できるコースター作りを予定しています。

陸前高田市ならではの文化を取り入れた芸術講座により、陸前高田の魅力を発信しています。



盛岡大学・同短期大学部

公開講座



陸前高田市では、市民の誰もが高等教育を受講できる環境を整えることを目的として、当市と盛岡大学短期大学部との間で、相互連携・協力協定は、平成14年に締結され、毎年12月に短期大学部の講座を通じて市民に向けた学びの機会を提供する活動が行われてきました。

平成23年には東日本大震災の影響で活動が一時中断しましたが、平成24年12月に協定を同大学まで拡大し、それ以降現在まで継続されています。この協定により、歴史、現代的課題、文学、栄養学、心理学などさまざまな分野にわたる講座が企画されており、高齢の方から高校生まで幅広い年齢層の市民が受講しています。

これらの講座は、毎年恒例の公開講座として市民に広く親しまれており、大学レベルの知識や技能について、研究者から直接学ぶことができる貴重な機会として、多くの市民が楽しみにしています。

